

JSP-45W ダイヤフラム & 補剛材の設計

【概要】 JSP-45W は、ダイヤフラムの設計については、鋼道路橋設計便覧(昭和 55 年 8 月改訂版)および鋼構造の補剛設計(小松定夫編)に基づき、間隔の照査、剛性の照査、応力度の照査の詳細設計を行います。また、補剛材の設計については、道路橋示方書・同解説 I 共通編、II 鋼橋編(平成 14 年 3 月)および名古屋公社の設計基準に基づき、断面の検討、応力度の照査、溶接部の検討等の詳細設計を行います。

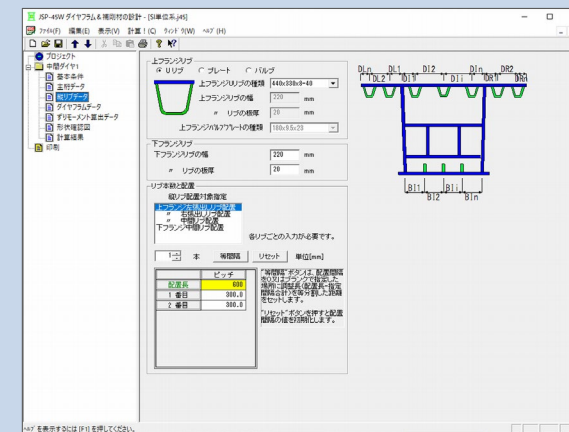
- 【特長】**
- ① 中間ダイヤフラム
 - ◆ 箱桁の線形は直線桁、曲線桁に対応しています。
 - ◆ 箱桁の構造は合成桁、非合成桁、鋼床版桁に対応しています。
 - ◆ ダイヤフラム形状は充腹板方式 & ラーメン方式、対傾構方式に対応しています。
※ 充腹板方式とラーメン方式の区別は、内部計算にて決定します。
 - ◆ 上フランジリブ形状は Uリブ、プレート、バルブプレートより選択できます。
 - ② 支点上ダイヤフラム
 - ◆ 支承タイプは 1 支承、2 支承より選択できます。
 - ◆ 補剛材の断面決定は自動、指定より選択できます。
 - ③ 支点上垂直補剛材
 - ◆ 設計基準は国土交通省、名古屋高速道路公社に対応しています。
 - ◆ 補剛材の断面決定は自動、指定より選択できます。
 - ④ 中間補剛材、水平補剛材
 - ◆ 補剛材の断面決定は自動、指定より選択できます。
 - ◆ 中間補剛材の断面を自動決定する場合、断面幅のまるめ値は 5mm、10mm より選択できます。
 - ⑤ 支点上補剛材とダイヤフラム(主桁腹板)の材質が異なる場合の許容応力度の考え方は以下のとおりとします。
 - ◆ 曲げと圧縮の照査 : 補剛材の材質
 - ◆ 圧縮のみの照査 : 許容応力度の低い材質
 - ◆ 支圧応力度の照査 : 許容応力度の低い材質
 - ⑥ ラーメン方式の補正係数 β の算出は土木技術 36 巻 3 号(P.101)開口部を有する鋼箱桁橋中間ダイヤフラムの剛度補正係数より求めます。

【製品価格】

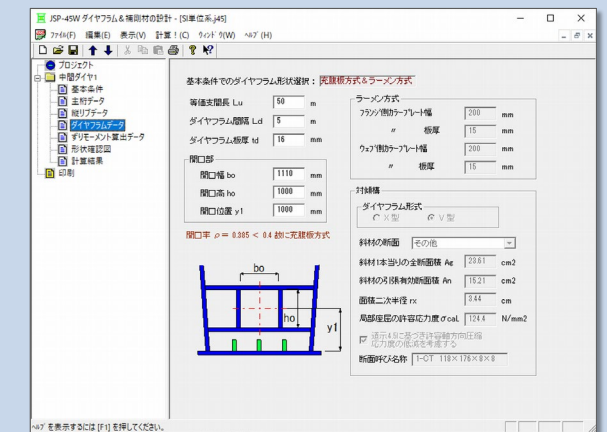
		税込	税抜
使用許諾料	1 ライセンス	440,000 円	400,000 円
追加ライセンス料	1 ライセンス	88,000 円	80,000 円

【動作環境】 Windows 8.1/10/11
Microsoft®, Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

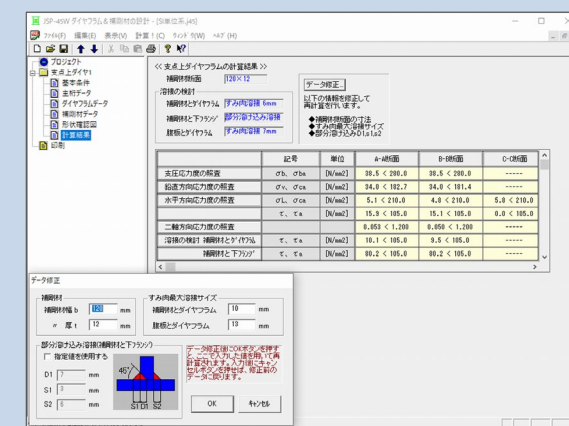
【画面例】



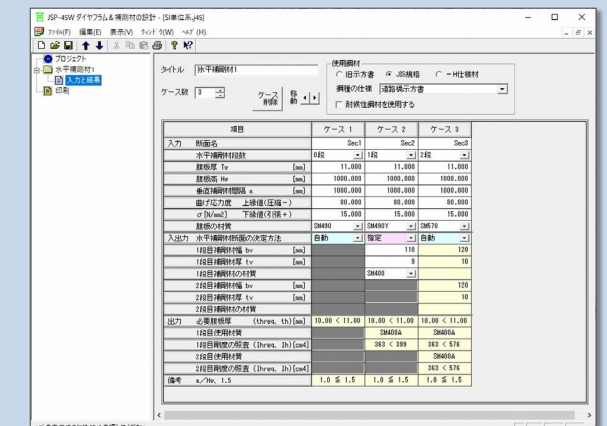
中間ダイヤ 1 / 縦リブデータ



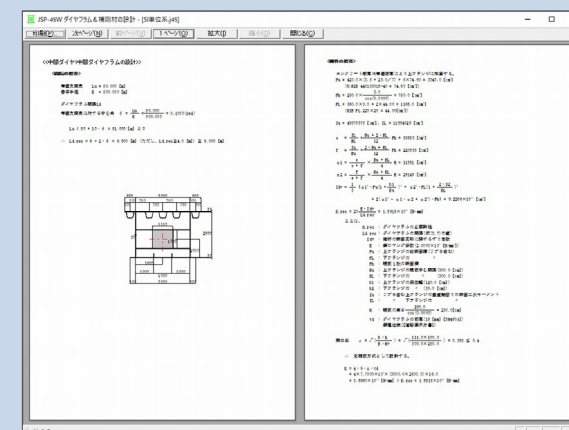
中間ダイヤ 1 / ダイヤフラムデータ



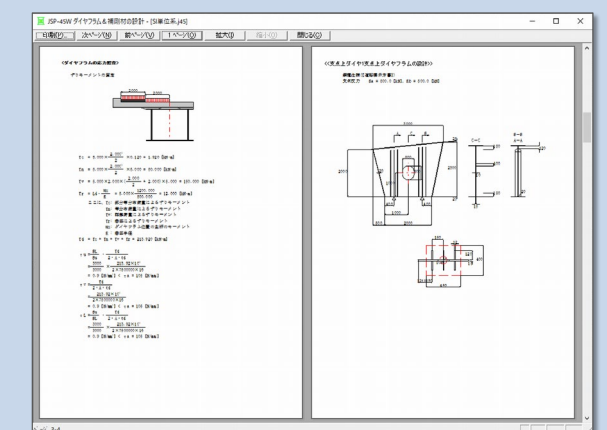
支点上ダイヤ 1 / 計算結果



水平補剛材 1 / 入力と結果



印刷 / 計算結果帳票



印刷 / 計算結果帳票

